

令和4年度（2022年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和4年4月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
2	空知	三笠市	赤坂 卓也	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
3	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
4	空知	栗山町	菅野 義樹	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
5	空知	沼田町	池内 孝司	団体職員	環境整備指導等	町長	令和6年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
7	後志	蘭越町	松山 廣	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
8	胆振	厚真町	尾谷 純司	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
9	胆振	洞爺湖町	青山 伸子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
10	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
11	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
12	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
13	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
14	日高	浦河町	西 利明	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和6年3月31日	
15	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和6年3月31日	
16	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和6年3月31日	
17	渡島	七飯町	田中 いずみ	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
18	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和6年3月31日	
19	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和7年3月31日	
20	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和5年3月31日	
21	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
22	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
23	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
24	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和7年3月31日	
25	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
26	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和5年3月31日	
27	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
28	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
29	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和5年3月31日	
30	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
31	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和7年3月31日	
32	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
33	留萌	苫前町	高瀬 徹	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
34	留萌	苫前町	福田 怜也	改良区職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
35	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和5年3月31日	
36	宗谷	稚内市	加藤 八重子	農業	地域活動全般	市長	令和6年3月31日	
37	林-ㇿ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和6年3月31日	
38	林-ㇿ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和6年3月31日	
39	林-ㇿ	美幌町	午来 博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
40	林-ㇿ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
41	林-ㇿ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
42	林-ㇿ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
43	林-ㇿ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
44	林-ㇿ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
45	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和7年3月31日	
46	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
47	十勝	本別町	岡崎 慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
48	十勝	本別町	谷口 まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和7年3月31日	
49	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
50	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和7年3月31日	
51	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和5年3月31日	
52	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
53	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和6年3月31日	
54	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	

令和4年度（2022年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和4年4月 現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央14名	空知5名	小西 泰子 (岩見沢市)	後志1名	松山 廣 (蘭越町)
		赤坂 卓也 (三笠市)	日高5名	△田中 義光 (日高町)
		金丸 大輔 (栗山町)		佐藤 剛 (新冠町)
	菅野 義樹 (栗山町)	中川 貢 (浦河町)		
胆振2名	池内 孝司 (沼田町)	石狩1名	以西 明美 (浦河町)	
	尾谷 純司 (厚真町)		西 利明 (浦河町)	
道南8名	渡島4名	青山 伸子 (洞爺湖町)	◎阿岸 哲広 (石狩市)	
		佐藤 曉樹 (知内町)	檜山4名	
		笠松 悦子 (知内町)		小笠原 明彦 (江差町)
		田中 いずみ (七飯町)		△吉見 俊彦 (上ノ国町)
○小林 石男 (八雲町)	佐々木 俊司 (厚沢部町)			
道北14名	上川8名	富樫 一仁 (せたな町)	留萌4名	
		中村 雅義 (幌加内町)		長澤 政之 (小平町)
		中江 正博 (鷹栖町)		△高野 幸子 (小平町)
		△小野寺 孝一 (当麻町)		高瀬 徹 (苫前町)
		佐藤 績 (上川町)	宗谷2名	福田 怜也 (苫前町)
		辰巳 明美 (上川町)		菊池 工 (稚内市)
		久保 照美 (中富良野町)		加藤 八重子 (稚内市)
		○岩永 かずえ (南富良野町)		
鷹嘴 充子 (南富良野町)				
道東18名	林-ツ78名	△馬淵 陽子 (北見市)	十勝4名	伊藤 由紀子 (帯広市)
		黒須 倫子 (北見市)		△高橋 貴子 (鹿追町)
		午来 博 (美幌町)		岡崎 慶太 (本別町)
		佐野 多希子 (津別町)		谷口 まどか (本別町)
		柳谷 亜紀子 (清里町)	釧路3名	高橋 美佐子 (厚岸町)
		久保 美恵子 (湧別町)		○服部 政人 (鶴居村)
		仲元寺 恒平 (興部町)		水本 梨佳 (鶴居村)
		石井 恭子 (雄武町)	根室3名	水沼 和子 (別海町)
				渡邊 広美 (別海町)
				尾形 好枝 (別海町)

計54名

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和4年度)

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

北海道

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件にも恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への農地集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、地域のコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため道では、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域住民が主体性を持ち持続的に活動に取り組む地域の確立に向けて気運の醸成とモデル的な活動事例の創出が必要である。</p>
事業実施の基本方針	<p>本事業では、農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。</p> <p>また、こうした住民活動を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、現地見学や研修会等の意見交換の場を通して、住民活動の手法や活動意欲をこれまで以上に高め、今後の地域づくりを担う人材として、その育成に努める。</p> <p>全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、本事業における取り組みとその成果を全道に普及する。</p>
事業実施計画	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かした住民活動が発展・継続することにより、中山間地域におけるコミュニティ機能を維持し、地域再生や地域活性化を図る。ひいては、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮することを目指す。</p>

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容					総事業費
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水 第3-2-(1) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた3年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を5ヶ年で10地区程度実施する。					
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水 第3-2-(2) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を5ヶ年で20回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、5ヶ年で10人程度新たに指導員を委嘱する。					
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水 第3-2-(3) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、5ヶ年で10回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、5ヶ年で10回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。					
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土 保全対策事業費 (ふる水と土基金)	計画事業費			13,630	13,618	13,701			
	(実績額)			3,647	3,480				
中山間ふるさと・水と土 保全推進事業費 (棚田基金)	計画事業費			780	782	699			
	(実績額)			780	782				

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数	10地区	2地区	1地区					
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数	20回	2回	2回					
		指導員の委嘱人数	10人	4人	7人					
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数	10回	2回	2回					
		情報誌の発行回数	10回	2回	1回					

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考	
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針		
①	地域活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き新規地区の掘り起こしに努めること。 新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動できていない継続地区においても状況の把握に努め、活動内容の変更など適宜対応すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 機会あるごとに事業の説明を行い、地域の多様な資源を活かした地域住民による主体的な取組を支援できるよう努める。 支援地区において新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに活動が進まない場合など、計画の進捗を適宜把握し、当該年度計画の活動内容の見直しなど柔軟に対応する。 	
②	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により、バス移動等を伴う現地研修及び参集開催を予定していた指導員会は中止となった。地域づくり研修会は、会場においては感染症対策を徹底した上、オンラインも併用して開催されていた。また、新たにオンラインファームツアー体験研修も実施されていた。今後もオンラインで開催できる内容を適宜検討し、研修機会の提供に努めること。また、感染状況が落ち着いた際は参集型の研修開催も検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会等は必要に応じてオンラインも併用し、研修機会を確保するよう努める。感染状況が落ち着いた場合は感染対策を徹底した上、参集型の研修も開催する。 指導員委嘱については関係機関とも連携の上、現地研修会時に直接説明するなど、積極的に人材の発掘に努める。 	
③	推進事業	<ul style="list-style-type: none"> おおむね計画どおり実施されている。今後も事業のPRに努めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、情報誌発行のほか、事業の制度説明や活動事例の提供を随時行う。 	

令和4年度（2022年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区（4地区、括弧は年次）
由仁町由仁地区（4）、本別町本別地区（2）、オホーツク広域地区（2）
洞爺湖町財田地区（1）
- (2) 住民意識醸成地区
新規地区（2地区程度を掘り起こし）

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱（随時）
- (2) 全国研修（未定）
- (3) 地域づくり研修会（2月中旬 札幌市）
- (4) 現地研修（道北・留萌 7月5日～6日）
（道南・渡島 10月中～下旬）
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（5月12日、2月中旬 札幌市）
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会（2月中旬 札幌市）
- (7) 振興局・ブロック別会議 道央：石狩管内（時期未定）
道南：未定
道北：未定
道東：未定
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回（8月、12月）
- (9) メルマガ「里づくり通信」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 2回（6月、3月）
- (2) 活動地区との意見交換
（由仁地区、本別地区、財田地区）
- (3) 地域活動支援事業地区の掘り起こし強化（7月、10月）
- (4) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (5) 啓発普及
「新・田舎人」（112～115号）の配布

令和4年（2022年）度現地研修開催概要

1 開催趣旨

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業に係る研修計画に基づき、指導員等の資質向上を図るため、地域づくりの先進地でその活動を体感し、情報交換等を通じて地域支援の実践と地域づくりに対する一層の意識醸成を図ることを目的とし、開催する。

2 研修場所

苫前町、小平町

3 研修日程及び行程

- (1) 日程 令和4年（2022年）7月5日（火）～6日（水）
- (2) 行程 別紙のとおり

4 移動手段及び旅費等

- (1) 原則行程のとおり、5日の集合及び6日の解散はどちらも「旭川駅」となり、研修中は借上バスでの移動となります。
自宅から駅までの往復は、各自、公共交通機関等を手配願います。
- (2) 北海道ふるさと・水と土指導員には、当該研修に係る旅費を北海道職員等の旅費に関する条例に基づき支給し、事前に申し出があった口座へ研修終了後に振り込みます。

5 その他

- (1) 集合場所
旭川駅（旭川市宮下通8丁目3）
- (2) 宿泊所
「ゆうゆうそう（夕遊創）」
（留萌郡小平町465-2）

令和4年度【ふる水】道東・道北ブロック 現地研修会 日程表（案）

2022年6月3日 現在

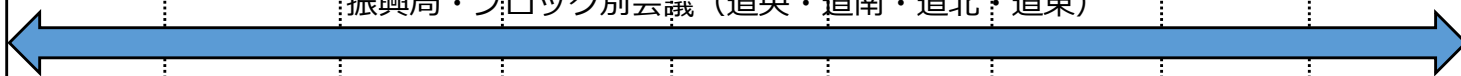
月 日 曜		発		乗 り 物		着		行 事			備 考
		場 所	時刻		所要時間	場 所	時刻	内 容	所要時間	場 所	
7 5 火		旭川駅	10:30	借上バス	1:30	留萌市	12:00	休憩（留萌振興局職員同乗）	0:10	留萌振興局	75.6km
		留萌市	12:10	借上バス	1:00	苫前町古丹別	13:10	昼 食	0:50	苫前町公民館	44.9km
								講演会①（苫前町西大志氏）	2:00	苫前町公民館講堂	
		苫前町古丹別	16:00	借上バス	0:30	小平町鬼鹿	16:30	施 設 見 学	0:30	道の駅（おびら鯨番屋）	20.6km
		小平町鬼鹿	17:00	借上バス	0:20	小平町	17:20	宿 泊	0:40	ゆうゆうそう（夕遊創）	13.1km
		小平町	18:00			小平町	18:00	夕 食	2:00	ゆうゆうそう（夕遊創）	
7 6 水		小平町	8:30			小平町	8:30	講演会②（小平町岸良斉氏）	1:45	ゆうゆうそう（夕遊創）	
		小平町	10:15			小平町	10:15	休 憩	0:10	〃	
		小平町	10:25			小平町	10:25	グ ル ー プ 討 議 ・ 閉 会	0:45	〃	
		小平町	11:10	借上バス	0:10	小平町臼谷	11:20	休 憩	0:20	臼 谷 漁 港	4.3km
		小平町臼谷	11:40	借上バス	0:15	留萌市	11:55	（留萌振興局職員下車・弁当積み込み）	0:05		8.4km
		留萌市	12:00	借上バス	1:30	旭川駅	13:30	（ 解 散 ）			75.6km

(指導員)
道東ブロック
道北ブロック 4名（うち留萌 4名）
(委員会)
委員 名
(道庁)
農政部農村設計課 名
〇〇振興局 名
留萌振興局 3名 計 7名

令和4年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 スケジュール（案）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修事業	道主催の研修		第1回幹事会 (札幌)		現地研修 (道北 留萌)			現地研修 (道南 渡島)				第2回幹事会 (札幌)	
	他主催の研修						全国研修 (東京) ※未定						
	情報誌等の発行					里づくり 25号 メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)				里づくり 26号			
推進事業	委員会			第1回委員会									第2回委員会
	活動地区と委員との意見交換会					由仁地区・本別地区・財田地区							
	その他				新・田舎人 112号		新・田舎人 113号			新・田舎人 114号			新・田舎人 115号
その他				農水省 ふる水基金 全国担当者 会議 ※未定									

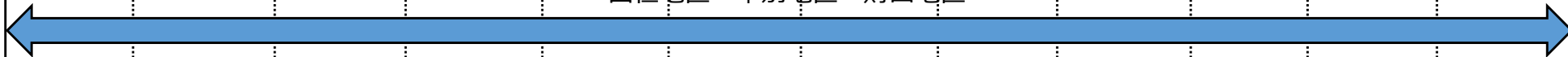
振興局・ブロック別会議（道央・道南・道北・道東）



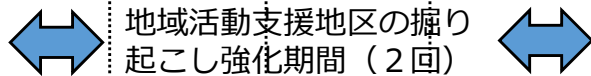
メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)



由仁地区・本別地区・財田地区



地域活動支援地区の掘り
起こし強化期間（2回）



令和4年度(2022年度)中山間ふるさと・水と土保全対策事業予算

(単位:千円)

	区分	分類	R4予算額 (当初)	R3予算額 (当初)	R3実績額
	地域支援活動 事業費	厚床地区	-	2,000	426
		上ノ国地区	-	300	240
		由仁地区	437	323	255
		本別地区	1,242	1,208	93
		オホーツク広域地区	1,111	1,063	1,009
		財田地区	1,000	-	-
		新規採択地区	2,455	880	273
	小計		6,245	5,774	2,296
2	研修事業費	地域づくり研修会、指導員会	1,432	1,790	475
		現地研修	3,215	3,422	138
		情報誌等	333	333	178
		全国研修会	474	474	0
		振興局・ブロック別会議	1,343	1,247	190
	小計		6,797	7,266	981
3	推進事業費	委員会	482	484	67
		現地調査等	74	74	699
		啓発活動	802	802	219
	小計		1,358	1,360	985
合計			14,400	14,400	4,262

地域活動支援事業

令和3年度（2021年度）事業実績及び
令和4年度（2022年度）活動計画

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町		活動地区名	由仁地区		活動団体名	WEAVE	
活動の目標	由仁町は、過疎化・高齢化が進行し農村地域としてのコミュニティの脆弱化が深刻で、地域の活力が低下している。このような中、町内には町外から農家へ嫁に来た女性が多く、この女性たちの間から「町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことが分からず不安なので、もっと知りたい。」などの要望が上がり、普及センターが仲介役となって若手女性の会『WEAVE』（編む、織るという意味）が平成25年3月に設立された。会の活動目標は、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで、地域の活性化に貢献することである。農村地域にとって女性たちが活躍できる場は限られており、その存在は活性化のキーになる。今後、この『WEAVE』の活動を促進することにより、食に関する伝統技術を継承し、イベントを通じて町内外の活発な交流を進めることで多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、活き活きと農村生活を送ることができるようになる。また、乾燥野菜の販売などを通じて『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、仲間の拡大を促進することで由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。							
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)		
	①	学習・グループ活動事業 町外から嫁いできた女性が、地域の魅力を認識し地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。		・農産物加工実習 ・新規会員の確保 ・野菜栽培・有機農業など勉強会・研修会の実施		・農産物加工実習の実施 1回/年 ・新規会員の確保 ・勉強会、研修会の開催 2回/年		
	②	乾燥野菜加工販売事業 生産した野菜の有効活用、由仁町の特産品としての商品を目指した乾燥野菜の販売、商品の改善、販売促進の取り組みを行う。		・乾燥野菜の製造販売 ・販売品目の見直しと製造マニュアルの作成 ・作業効率、収益性の改善		・乾燥野菜製造販売 50袋/年 ・販売品目の検討 ・製造マニュアルの改善		
	③	交流事業 野菜の直売を通して消費者交流を図る。魅力あふれる地域づくりにつながるイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。SNSを活用して、地域の魅力を発信していく。		・野菜直売の実施 ・「クリスマスイベント」の開催 ・インスタグラムを利用した由仁町農業・農村の魅力発信 ・他農業者との情報交換		・野菜直売の実施 6回/年 ・「クリスマスイベント」開催 1回/年 ・情報発信 随時 ・他農業者との交流・情報交換会の開催 2回/年		
3年間の活動プロセス	関連No	令和 3年度(当初)		令和 3年度(変更)		令和 4年度		
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額	
	①	農産物加工実習(味噌製造) ・講師料 ・製造に係る資材費	24	農産物加工実習(味噌製造)→中止 ・講師料 ・製造に係る資材費	22.8	農産物加工実習(味噌製造) ・講師料 情報発信についての研修会 ・講師料 ・旅費 先進地へのバス視察研修	20 26 170	
	①②	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	30	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	54.6	乾燥野菜加工販売事業 ・製造に係る資材費	35	
	③	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	120	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	128	野菜直売 ・包装に必要な資材費 ・直売所設置に必要な資材費	48	
	③	クリスマスイベント ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	73	クリスマスイベント→中止 ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	0	クリスマスイベント ・PRポスター等製作費 ・イベントに係る装飾費	72	
	合計		247		205.4		371	
関係機関・団体	由仁町産業振興課							
連携・協力機関・団体								

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町	
活動地区名	由仁地区	
活動団体名	WEAVE	
活動実績の当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 ○乾燥野菜加工販売事業 ○交流事業 	<p>○スマート農業機器操作体験研修会を(株)ヤンマーアグリジャパンと技術普及課の協力のもと行った。実際に自動操舵田植え機やロボットラ、ドローンを操作体験し、安全研修も行った。 初めて農業機械を運転する会員もあり、スマート農業機器に関する知識が深まるとともに、今後の機械の導入についても前向きな意見が多く聞かれた。</p> <p>○農産物加工実習は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、実習時に密閉、密集、密接となるため中止とした。</p> <p>○乾燥野菜製造は、作業の効率化や商品の改善についてワークショップ形式で検討した。 品目数を「スープ用途」と「コーン単品」のみにしぼり、内容量やカット方法の見直しを行い、作業効率化と収益性の改善を行った。裏面にレシピを表示するなど、パッケージも改良した。製造した乾燥野菜は、主に野菜直売時に販売した他、町内店舗での委託販売や、サンプル提供に使用した。 製造数「スープ用途」39袋、「コーン単品」12袋</p> <p>○クリスマスパーティーは、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し開催を中止した。</p> <p>○野菜の直売活動は、感染拡大防止のため、町内と近隣の江別市、千歳市のみで実施した。町内のセブンイレブン駐車場(7/13、8/24、9/14)と江別市の駄菓子屋(8/2)、千歳市イロイロリビングマルシェ(7/10、9/18)にて、の計6回直売を実施し、約13万円を売り上げた。</p>
活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜栽培・販売の、知識・技術向上のための学習活動 ・グループ運営や情報発信方法の研修 ○乾燥野菜加工販売事業 <ul style="list-style-type: none"> ・製造工程の効率化及び衛生管理方法の改善 ・収益性の改善 ・販売PR方法の改善 ○交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの負担を軽減するイベント準備方法の改善 ・効果的なPRの実施 ・イベント内容の充実 ・新型コロナ感染リスクを回避したイベント実施方法の検討 	

<p>次年度の活動方向 (活動の改善点等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工実習(味噌製造) ・野菜栽培及び販売に関する知識向上のための勉強会の実施 ・先進地視察研修(野菜加工、グループ活動) ・新規会員の確保のための取組(パンフレット作成、交流会の開催) ○乾燥野菜加工販売事業 <ul style="list-style-type: none"> ・製造マニュアルの改善 ・原価計算による収益性の改善 ・パッケージの改良 ・販売方法の検討と販売先の開拓 ○交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜直売の実施 ・12月にクリスマスパーティーを開催 ・Instagramを利用した由仁町農業・農村の魅力発信 ・他農業者との交流と情報交換
<p>活動状況写真 (別添可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・グループ活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業機器操作体験研修会 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div> <ul style="list-style-type: none"> ○乾燥野菜の加工販売事業 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・町内での野菜直売の実施 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>
<p>総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況</p>	<p>取組が可能なタイミングで進められた行事も有ったが、コロナ禍の影響により、本年度も参加者が多くなる交流行事や研修会などが中止になったのが残念である。</p> <p>しかしながら、実行できた行事の課題などに着目し新たな取組みを反映した事業計画を検討していることは、これまで培ってきたノウハウが団体の成長になっていると思われる。事業最終年として、コロナなどの影響を受けないことを願い、事業活動が盛会であることを期待しています。</p>

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町	活動地区名	由仁地区	
活動団体名	WEAVE			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	農産物加工実習(味噌製造)	07_報償費	20,000	講師謝礼5000円×4hr
①	情報発信についての研修会	07_報償費	20,000	講師謝礼5000円×4hr
		08_旅費	6,000	講師旅費3000円×2
①	視察研修	13_使用料及び貸借料	170,000	バス借り上げ代(十勝方面)
②	乾燥野菜製造販売	10_需用費	35,000	乾燥剤、脱酸素剤
				食品用包装袋、ラベルシール等
③	野菜直売	10_需用費	48,000	FGパック、パッケージ用シール
				クリップホルダー等
③	クリスマスイベント	10_需用費	72,000	PR用ポスター、カラーズプレー
				方眼模造紙等
	活動支援	10_需用費	66,000	トナーカートリッジ、PPC用紙等
合計			437,000	
費目計		07_報償費	40,000	
		08_旅費	6,000	
		10_需用費	221,000	
		11_役務費	0	
		12_委託料	0	
		13_使用料及び貸借料	170,000	

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画 (R4～)

【オホーツク総合振興局】

市町村名		美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町		活動地区名	オホーツク広域		活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議					
活動の目標		・活動参画団体間の意見交換、情報交換を通じ、人材交流を図るとともに担当者の企画運営力のスキルアップをめざす。 ・各地域の個性や特性を活かして取組んでいる活動参画団体の各種事業を有機的に構成し、旅行者に提供する体制を整え、オホーツク地域圏での長期滞在者増加を促進する。 ・地域間の連携を深め、地域住民の参加や協力を得ながら、体験型観光の広域的な受入体制及び教育旅行の広域的な受入体制を構築し、新たな集客を図り地域の活性化を図る。											
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)							
	①	・広域連携の必要性、優位性についての意思統一 ・各団体間の協力体制の強化 ・広域連携による具体的な仕組み、商品の開発		・連携会議の運営、幹事会・部会の開催 ・各団体の取組みを知り広域連携体制の構築を図る ・地域住民の協力拡大に向けた研修会等の開催		・幹事会、部会開催回数 年4回 ・各団体を訪問する現地研修会開催回数 年1回 ・地域住民対象の研修会回数 年1回							
	②	・インバウンド、FITに対応した広域連携による農山漁村活用型の体験コンテンツ造成とガイド人材の育成 ・教育旅行に対応した体験型コンテンツ造成及び異業種連携による受入体制の構築		・インバウンド、FIT対応型広域連携による体験コンテンツツアーの試験実施 ・ガイド育成、ガイドレベル向上を図る講習会等の開催 ・教育旅行における体験型コンテンツの試験実施 ・異業種間連携の意識醸成を図るセミナーの開催		・体験型コンテンツモニターツアー実施(インバウンド、FIT、教育旅行) 年2回 ・ガイド育成講習会の開催 年2回 ・異業種間連携強化のためのセミナー開催 年1回							
③	・管内広域連携による教育旅行受入体制の拡大 ・教育旅行受入体制の整備		・農業体験時に必要な長靴、ツナギ服を確保し、受入体制の充実を図る ・先進事例を学ぶ研修会等を開催し、受入農家の拡大と推進態勢の強化を図る		・受入地域の拡大 2団体 → 5団体 ・地域間連携による教育旅行受入実施								
3年間の活動プロセス	関連No	令和3年度(当初)		令和3年度(変更)		令和4年度							
		内容		内容		内容		内容					
	①	・各団体を訪問する現地研修会開催(体験料等) ・地域住民参加型の研修会開催(講師謝金、旅費、会場使用料)(小計)		・16千円 ・79千円 (95千円)		・各団体を訪問する現地研修会(小計)		・112,300円 (112,300円)		・各団体を訪問する現地研修会(1回) ・地域住民参加型の研修会開催(1回)(小計)		・16千円 ・56千円 (72千円)	
	②	・体験コンテンツツアーPR動画作成 ・ガイド育成講習会(2回) ・体験型コンテンツモニターツアー(バス借上料) ・異業種間連携強化を図るセミナー開催(1回)(小計)		・103千円 ・158千円 ・150千円 ・79千円 (490千円)		・体験コンテンツツアーPR動画作成 ・野鳥ガイド育成講習会(5回) ・体験型コンテンツモニターツアー ・野鳥講習会スコープ購入(小計)		・119,900円 ・220,789円 ・115,500円 ・93,680円 (549,869円)		・野鳥ガイド育成講習会(5回) ・広域野鳥観察モニターツアー(2回) ・ツアーパンフレット作成 ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回)(小計)		・40千円 ・160千円 ・100千円 ・110千円 ・110千円 (520千円)	
	③	・教育旅行受入用長靴(42足) ・教育旅行受入用ツナギ服(44着) ・霧吹き型ボトル(10本) ・消毒液(5L×5) ・教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計)		・93千円 ・119千円 ・6千円 ・60千円 ・61千円 ・140千円 (479千円)		・教育旅行受入用長靴(69足) ・教育旅行受入用ツナギ服(69着) ・霧吹き型ボトル(10本) ・消毒液(5L×5) ・教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計)		・150,282円 ・182,160円 ・5,500円 ・0円 ・0円 ・0円 (337,942円)		・教育旅行受入用長靴(26足) ・体験型コンテンツ開発に係わる意見交換会(1回) ・教育旅行ニーズ調査(1回) ・教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料)(小計)		・58千円 ・110千円 ・110千円 ・102千円 ・140千円 (520千円)	
合計			1,064千円				1,000,111円				1,112千円		
活動団体構成員 ※各協議会の構成員は別紙のとおり		美幌町		美幌町地域おこし協力隊(個人)		(株)TAISHI(道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠)		小清水町観光協会					
		オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会(※)				津別町役場		大空町有機農業推進協議会					
		北見市農泊推進協議会(※)		滝上町観光協会									
関係機関・団体		農林水産省北海道農政事務所北見		国土交通省北海道運輸局北見運輸支局									
連携・協力機関・団体		株式会社農協観光北見支店											

オホーツク広域地区構成地域協議会の構成員等 【別紙】
(R4~)

名称	代表（事務局）	構成員
オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会	民間事業者 (民間事業者)	観光・小売り等事業者 農業者・漁業者 旅行事業者 ガイド事業者 マルシェ実行委員会 東京農大（オホーツク） 観光協会 網走市
北見市農泊推進協議会	観光協会代表 (観光協会)	観光協会 飲食衛生組合 ホテル・旅館組合 JA青年部 農業・飲食等組織 体験等受入組織 北見市

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【オホーツク(総合)振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	
活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議(体験コンテンツ部会)	
活動実績の当初・変更計画との比較	当初・変更	実績
	①各団体を訪問する現地研修会開催	6/23(参加者14名)美幌町・滝上町にて、開催市町村での農泊事業の推進状況やメニュー情報の共有、人的交流を行い次年度に向けた連携体制を構築することを目的として研修会を実施した。今まで交流のなかった地域やメンバーとの交流ができたことは今後の広域連携の場で様々な意見醸成ができる関係性を促進するきっかけとなった。
	②体験コンテンツツアーPR動画作成	10/5、6、13 網走市第一中学校の3クラス別に行った郷土学習の体験型授業の受け入れの様子を撮影した。教育旅行の新しい形として地域内の農家民泊や宿泊施設を活用した教育旅行、研修旅行内での体験メニューを提案するPR動画として活用予定。
	③野鳥ガイド育成講習会(5回)	5/12(10名)、30/オンライン(11名)、6/26(10名)、28(11名)、10/10(13名)(全5回):()内各回参加者 広域連携の体験コンテンツ造成、共通のテーマに沿ったガイド育成を考慮し、北海道内でも有数の野鳥生息地域となっているオホーツクエリアの特性を活かし、野鳥観察を通して地域の特産品や歴史文化をガイドインングできる人材の育成を行った。講師には日本野鳥の会オホーツク支部の滝上町・小山内氏、小清水町・川崎氏をお招きした。また小清水観光協会事務局長・湯浅氏の協力を仰いだ。コロナ禍の緊急事態宣言などにより現地実施が難しい場合は中止もしくはオンラインにて講習会を実施した。
④体験型コンテンツモニターツアーの開催	10/23(参加者17名)に開催した滝上町での野鳥観察ツアー・地域特産品のランチ付きコースでの研修会をモニターツアーとして行い、次年度に向けての各地域のメニュー造成やガイドの育成などについて各市町村からも窓口となるメンバーも参加し意見交換を行った。	

<p>活動の課題</p>	<p>①広域連携を行う中で実施する野鳥観察体験コースの魅力をどう出していくか ②ガイド力の向上 ③ツアーの認知度アップ及び販売力の向上</p>
<p>次年度の活動方向 (活動の改善点等)</p>	<p>次年度も引き続き広域連携の中での野鳥ガイドを育成するため、季節ごとに講習会を開催する。また実際にツアーを造成しモニターツアー内で育成したガイドによるガイドイングも実施したいと考える。またオホーツク管内外の観光客にツアーを知ってもらうために認知度をアップする取り組みとしてパンフレットの作成やSNSを使った情報の発信を行いたい。</p>
<p>活動状況写真 (別添可)</p>	<p>6/23 ①各団体を訪問する現地研修会開催 美幌町のLIFE in BIHORO での研修風景</p>   <p>滝上町での研修風景</p>   <p>10/5.6/13 ②体験コンテンツツアーPR動画作成</p>    

③野鳥ガイド育成講習会(5回) 5/12 網走市呼人半島会場



6/26,28 小清水町 原生開園会場



10/10 小清水町 どうふつ湖会場



10/23 ④体験型コンテンツモニターツアーの開催






総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、野鳥ガイド育成講習会の一部中止やオンラインでの開催になるなどしたが、参画団体の努力により、当初計画したとおりの成果が得られた。なお、R4年度はR3年度の成果を基にして更なる活動が期待される。

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
実践活動の評価・検証結果

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	
活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議(教育旅行部会)	
活動実績の当初・変更計画との比較	<p>当初・変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入用長靴(42足) ・教育旅行受入用ツナギ服(44着) ・霧吹き型ボトル(10本) ・消毒液(5L×5) ・教育旅行推進研修会(1回) ・教育旅行モニターツアー(バス借上料) 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行受入用長靴(69足) ・教育旅行受入用ツナギ服(69着) ・霧吹き型ボトル(10本) ・消毒液(中止) ・教育旅行推進研修会(中止) ・教育旅行モニターツアー(中止) <p>※R4.1/21、津別町にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して中止とした。</p> <p>※R3.9月、大阪府内の高校を受入して開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して学校側判断により中止となった。</p>
活動の課題	新型コロナウイルス感染拡大の影響から教育旅行の受入が中止となり、実績が得られない状況が続いている。また、美幌町、津別町に次ぐ受入先拡大を図る推進活動についても新型コロナウイルス感染拡大の終息も見通せない状況では休止せざるを得ない状況も続く。	
次年度の活動方向(活動の改善点等)	新型コロナウイルス感染拡大の影響から教育旅行事業部門、体験コンテンツ事業部門ともに集客力が低下していることから次年度は新規活動として体験コンテンツ開発に係わる意見交換会とともに教育旅行ニーズ調査を実施し、旅行会社等との直接交渉、直接対話により集客力の回復に繋げたい。	
活動状況写真(別添可)	  	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	新型コロナウイルス感染拡大による影響から、研修会とモニターツアーが中止となったが、R4年度には、改めて実施を目指すと共に、新たな活動に取り組むことも計画しており、集客力向上に向けた活動が計画的・積極的に行われている。	

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議			
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
①	・各団体訪問、現地研修会開催	11_役務費	16,000	(体験料)@1,600円×10名
		07_報償費	26,000	(講演料)@13,000円/時×2時間×1回
	・地域住民参加型研修会開催	08_旅費	25,000	(道内1泊2日)@25,000円/回×1回
		13_使用料及び貸借料	5,000	(会場使用料)@5,000円/回×1回
小計		72,000		
②	・野鳥ガイド育成講習会(全5回)	07_報償費	30,000	(講演料)@30,000円/回×1回
		13_使用料及び貸借料	10,000	(会場使用料)@5,000円/回×2回
	・モニターツアー(全2回)	13_使用料及び貸借料	160,000	(バス代)@80,000円/回×2回
	・ツアーパンフレット作成	12_委託料	100,000	デザイナー委託料
	・体験型コンテンツ開発に係る意見交換会	07_報償費	100,000	体験ガイド謝金(@10,000円/時×2時間×5人)
08_旅費		120,000	招聘専門家旅費交通、宿泊費(2泊3日 @60,000円×2事業者)	
小計		520,000		
③	・教育旅行受入用長靴	10_需用費	57,200	@2,200円×26足
	・教育旅行ニーズ調査	12_委託料	220,000	@220,000円×1回
	・教育旅行推進研修会	07_報償費	52,000	(講演料)@13,000円/時×2時間×2名×1回
		08_旅費	50,000	(道内1泊2日)@25,000円×2名×1回
	・教育旅行モニターツアーバス借上料(大阪市内の高校)	13_使用料及び貸借料	140,000	@35,000円/1台×2台×2日
小計		519,200		
合計			1,111,200	
費目計		07_報償費	208,000	
		08_旅費	195,000	
		10_需用費	57,200	
		11_役務費	16,000	
		12_委託料	320,000	
		13_使用料及び貸借料	315,000	

別記様式第2号

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	活動地区名	本別地区	活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ		
活動の目標	各種団体に属さず地域活動に参加できていなかった住民同士の繋がりを創出し、コミュニティを形成する。そこから老若男女を問わず皆で地域における課題を抽出し、解決に向けた具体的な行動を起こし、住民一丸となって地域の活性化と未来に向けた持続可能なまちづくりを目指す。						
活動の方向	No.	活動の目的	活動の内容		目標（数量・定性）		
	①	住民同士の繋がりを創出し、地域における連携、協力体制を強化する。住民主体の持続可能なまちづくりに向け意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ほんべつ☆うきうき未来らぼミーティング ◆住民主体のまちづくりに向けた研修会 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ミーティング開催（6回/年） ◆まちづくり研修会開催（1回/年） ◆幅広い地域住民の参加と意識の共有（随時） ◆先進地視察による勉強会の実施（1回/年） 		
	②	関係人口の増加や移住者等とのコミュニティを形成し、都市と地域や地域内での交流を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆体験イベントをもとに町内外の方との交流を深める。 ◆移住されてきた方等を紹介カードにて発信し地域内での活動を紹介、応援する。 ◆新たな発想で町内スポットを巡礼地化し、発信・集客を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆移住者交流イベントの開催（1回/年） ◆街コンイベントの開催（2回/年） ◆イベント用ユニフォームの製作 ◆紹介カード作成・配布 ◆何かの巡礼地化を検討し、スポット探し・発信を行う（1回/3年） 		
	③	新たな観光資源を発掘・発信することによって町内の魅力を多くの方々に知ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ◆町内の自然を生かした様々なアクティビティの検討開発 ◆発掘したアクティビティの体験会の開催 ◆実証に向けた体制の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆発掘・実証に向けた検討会議（4回/年） ◆アクティビティ体験会の開催（1回/年） 		
	④	子供たちと本別だから出来る事の体験活動や地域学習を通して郷土愛を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆子供たちが町を一度離れても戻ってきたいと思ってもらえるような活動をする。 ◆特産物での食育体験や屋外活動体験 		<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材（豆・小麦など）を使用した食育体験（3回/年） ◆写真・イラスト展の実施（1回/年） ◆体験講話会の開催（1回/年） ◆地元企業見学の実施（1回/年） 		
	⑤	地元食材のアピールや町民・学生と連携したフードロス対策への取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◆地元産食材を活用した調味料（万能タレ）の試作・開発 ◆試食会・アンケート収集により地域での『このみ』の調査 ◆地域食材の可能性のリサーチ、食育推進計画作成検討 		<ul style="list-style-type: none"> ◆試作品開発会の実施（3回/年） ◆試作品試食会・広報・アンケートの実施（1回/年） ◆食育推進計画作成の検討会議の実施（2回/年） 		
⑥	各活動の情報発信を行うことによって町内外への認知度を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆各活動担当者からの活動報告をSNS等にて発信する。 ◆情報収集により各活動担当者への情報提供を行う。 ◆クリエイター等と協力して幅広い発信にてアピールする。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆各らぼの活動状況取材（随時） ◆チラシ・SNS等への掲載・アップロード（随時） ◆町内外の様々な情報の収集・情報提供（随時） ◆アートを活用しての発信の検討会実施（1回/年） 			
3年間の活動プロセス	関連No.	令和3年度（当初）		令和3年度（変更）		令和4年度	
		内容	予算額(千円)	内容	予算額(千円)	内容	予算額(千円)
	①	全体ミーティング	0	全体ミーティング	0	全体ミーティング	0
	①	まちづくり研修会	58	※中止	0	まちづくり研修会	58
	①	先進地視察	266	※中止	0	先進地視察	356
	②	移住者交流イベント	80	移住者交流イベント	0	街コンイベント	130
	②	ユニフォーム制作	30	ユニフォーム制作	41		
	②	紹介カード作成	50	※中止	0	紹介カード作成	30
	③	アクティビティ講演会	56	※中止	0		
	③	アクティビティ体験会	130	アクティビティ体験会	24	アクティビティ体験会	160
	④	食育体験	132	食育体験	28	食育体験	86
	④	ワークショップ体験	86	※中止	0	講演会	36
	④					企業見学	26
	④					写真展	30
⑤	試作品開発	70	試作品開発	0	試作品開発	120	
⑤	試作品試食会	70	※中止	0	試作品試食会	30	
⑤	食育推進計画検討会議	0	※中止	0	食育推進計画検討会議	0	
⑥	広報チラシ	180	※中止	0	広報チラシ	180	
⑥	アート活用検討会	0	※中止	0	アート活用検討会	0	
関係機関・団体	本別町役場						
連携・協力機関・団体	本別町観光協会		本別町農業協同組合・青年部・女性部		道立農業大学校		
	本別町商工会・青年部・女性部		本別町立勇足中学校				

別記様式第4号

令和3年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 実践活動の評価・検証結果

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町	
活動地区名	本別地区	
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ	
活動実績の当初・変更計画との比較	<p style="text-align: center;">当初・変更</p> <p>(当初)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体ミーティング ○まちづくり研修会 ○先進地視察 ○移住者交流イベント ○ユニフォーム制作 ○紹介カード作成 ○アクティビティー講演会 ○アクティビティー体験会 ○食育体験 ○ワークショップ体験 ○試作品開発 ○試作品試食会 ○食育推進計画検討会議 ○広報チラシ ○アート活用検討会 <p>(変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体ミーティング ○移住者交流イベント ○ユニフォーム制作 ○アクティビティー体験会 ○食育体験 ○試作品開発 	<p style="text-align: center;">実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナの影響で多くの活動が中止 ○全体ミーティング R3活動目標設定に係る打合せを行った。 ○移住者交流イベント 本別町への移住者との交流会を予定したが、コロナのため、収録による配信に変更した。 ○ユニフォーム制作 移住者交流イベント用にTシャツ作成した。 ○アクティビティー体験会 標茶町塘路で、カヌー体験を行った。 ○食育体験 勇足中学校と連携し、うどん作りを行った。 勇足中学校と連携し、どんぶりメニューコンペを行った。 町内の小・中学生、高校生を対象に餃子作りを予定したが、コロナのため、本番前の試作のみ行った。 ○試作品開発 オリジナルタレ作りを行った。
活動の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのメンバーが所属しており人数的にコロナ渦では集まれておらず、活動意識の醸成がなかなか出来ていない。 ・各らぼでコロナ渦の合間を縫って準備活動していたが、実際の開催日に「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が出て活動が出来なかった。 ・講演や会議についてはオンラインを活用したが、当団体でZoom有料ライセンスを持っていないため、中断され、スムーズに行えない事が多かった。 ・集まれる時間が少なかったため、メンバーの意識が低下してしまったので、どのように活動出来るかを検討していく必要がある。 ・会計手続きに係る、手順や必要書類について理解不足があり、実施できなかった活動がある。 	
次年度の活動方向 (活動の改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には今年度出来なかったことを確実に実行していくようにする。 ・活動日程を早めに確定させ、会計処理手続きを進めるようにする。 ・会計手続きの手順、必要書類等を理解し、迅速に活動できるようにする。 ・対面とオンラインの併用を工夫し、メンバーの意識向上及び、新規メンバーの呼びかけを行う。 	
活動状況写真 (別添可)	<ul style="list-style-type: none"> ・写真は別紙 	
総合振興局等から見た活動地区及び活動団体の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を取り止めたものが多く、メンバーのモチベーション低下が懸念される。 ・実施できた活動は、楽しい雰囲気で行えているので、メンバー以外にも情報発信を行ってほしい。 	

【全体ミーティング】



【移住者交流イベント】



【ユニフォーム制作】



【アクティビティー体験会】



【試作品開発】



【食育体験】



うどん作り



どんぶりメニューコンペ



餃子作り (試作)

別記様式第3号

令和4年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業実施計画

【十勝総合振興局】

市町村名	本別町		活動地区名	本別地区
活動団体名	ほんべつ☆うきうき未来らぼ			
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
①	まちづくり研修会	07_報償費	28,000	14,000円×2時間
		08_旅費	30,000	札幌～本別 1泊2日
	先進地視察	07_報償費	26,000	13,000円×2時間
		10_需用費	90,000	機材購入
		13_使用料及び賃借料	200,000	バス借上料
小計		40,000	会場費	
			414,000	
②	紹介カード作成	10_需用費	30,000	配布カード3,000円×10名分
	HOTほんべつ街コンイベント	10_需用費	130,000	材料費
小計			160,000	
③	アクティビティー体験会	11_役務費	160,000	体験料
小計			160,000	
④	食育体験	07_報償費	26,000	13,000円×2時間
		08_旅費	10,000	本別町内
		10_需用費	50,000	材料費
	講演会	07_報償費	26,000	13,000円×2時間
		08_旅費	10,000	本別町内
企業見学	07_報償費	26,000	13,000円×2時間	
写真展	10_需用費	20,000	材料費	
小計		13_使用料及び賃借料	10,000	会場費
			178,000	
⑤	試作品開発	10_需用費	100,000	材料費
		13_使用料及び賃借料	20,000	会場費
	試作品試食会	10_需用費	20,000	材料費
		13_使用料及び賃借料	10,000	会場費
小計			150,000	
⑥	広報チラシ	10_需用費	140,000	印刷代
		11_役務費	40,000	折込代
小計			180,000	
合計				
費目計		07_報償費	132,000	
		08_旅費	50,000	
		10_需用費	580,000	
		11_役務費	200,000	
		12_委託費	0	
		13_使用料及び賃借料	280,000	
			1,242,000	

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 地域活動支援事業に係る実施要望調書

総合振興局等名	胆振総合振興局	市町村名	洞爺湖町
活動地区名	財田地区	活動団体名	財田米ブランド強化推進委員会
市町村担当者所属・氏名	農業振興課 主幹 村上友和	関係指導員名	指導員 青山 伸子

活動地区及び活動団体概要

■地区の概要

洞爺湖町は、北海道南西部に位置する人口8,260人(※令和3年11月30日現在)の町で、平成18年3月27日に虻田町と洞爺村が合併し「洞爺湖町」となった。町の特色としては、洞爺湖と有珠山と噴火湾に囲まれた自然豊かな町であり、洞爺湖町を中心とする地域は気候が温暖なことから「北海道の湘南地方」と呼ばれ、交通の便も良く観光景観に恵まれていることから北海道有数の観光地となっている。

町の基幹産業である農業は、野菜(根菜、果菜、葉菜類等)、畑作物、水稲、畜産と多彩で、クリーン農業にも取り組んでおり、JAとうや湖では全国に先駆け平成21年にGLOBALG.A.Pを取得した。財田・川東地区では水稲や施設野菜を中心とした農業経営が展開されている。

■活動団体の概要

- 目的 洞爺湖町財田・川東地区で生産されている『財田米』の地域ブランドとしての確立を図り、『財田米』のPRによる付加価値向上と食育、地産地消を推進して地域の応援団づくりにつなげる。
- 設立 令和4年2月22日
- 構成員 洞爺湖町財田・川東地区の水稲農業者 14戸
- 代表者 洞爺湖町ブランド強化推進委員会 代表 塩田 満
- 活動経歴 令和2年度から「洞爺湖町下台地区を考える会」において地区有志者、関係機関と財田米のブランド化に向けた方向性について検討・協議を行い、財田米生産者全員へ「財田米の定義」について提案を行い、エリアを確定した後、販売促進と付加価値向上に向けた検討を重ねている。

活動地区及び活動団体の活動の現状と課題

洞爺下台地区の農業に係る将来構想を協議する「洞爺下台地区を考える会」(平成28年発足)をきっかけに、「財田・川東地域資源保全組合」(※多面的機能支払事業)、「財田・川東水利用組合」(※農地耕作条件改善事業)がそれぞれ設立され、現在まで財田・川東地区の特色である水稲農業経営が持続できるよう地域の農業者が主体的に基盤整備等に取り組んでいる。

本地区は恵まれた土地条件、気象条件を活かし、品質の良い水稲生産を行っているが、生産者や直接販売している消費者の高齢化などから将来的な安定生産・販売が危惧されている。そのため、都市部を含めた消費者に向けたPR活動や、次世代の担い手を育むため地域の子供たちに財田米の歴史的・風土的生産背景を学んでもらう取組が必要となっている。

地域の活性化に向けた展開方向

■実践活動 (令和4～6年度)

<イベントの開催等>

地元イベントにおける出展等、効果的なPR活動とプロモーションビデオの製作等

<地産地消の取組>

地元小学生等を対象とした食育活動の実施

<地域PR>

HPやパンフレット等活用した効果的な情報発信、地元女性に財田米に合う総菜等の調理研修会等

<販売促進>

のぼりやポスター、ステッカー等共通のPR素材活用による販売促進効果の向上、都市部での販売促進PR活動

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【胆振総合振興局】

市町村名		洞爺湖町		活動地区名		財田地区		活動団体名		財田米ブランド強化推進委員会		
活動の目標		当地区で生産されている財田米について学ぶ機会を設け、近隣地域住民や子供たちの地域産業に対する理解の醸成を図る。また、先人たちが築き上げてきた「財田米」への誇りや愛着を育むことで生産者の意欲向上と集落機能の維持につなげる。 財田米の付加価値向上に向けた取組とPR活動を行い、認知度及び地域ブランド力の向上や顧客満足度の上昇、洞爺湖町への観光客の入り込み増を目指し、地域の活性化につなげる。										
活動の方向	No	活動の目的			活動の内容			目標(数量・定性)				
	①	財田米の啓蒙活動による付加価値向上への取り組み			・HP、ポスター、パンフレット等活用によるPR ・プロモーションビデオの製作 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜(おかず、ご飯のお供)研修会開催と消費者へのメニュー配布			・HPの開設、SNSの更新(随時) ・ポスター作成 100枚/年 ・パンフレット、ステッカー作成 1,000枚/年 ・財田米に合う料理研修会開催 1回/年				
	②	子供から大人までを対象とした食育の展開による地産地消活動を推進し、財田米に対する理解の醸成を図る			・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) ・地域イベント(洞爺湖マラソン、大収穫祭等)を活用した試食会等の開催			・体験学習 2回/年 ・試食会の開催 2回/年				
	③	財田米の安定販売に向けた認知度向上への取り組み			・都市部での認知度向上のためのPR活動			・都市部での認知度向上のためのPR事業 1回/年				
3年間の活動プロセス	関連No	令和4年度				令和5年度				令和6年度		
		内容		予算額		内容		予算額		内容		予算額
	①	・HPの開設 ・ポスター、パンフレット、ステッカー等作成		980千円		・パンフレット、ステッカー等増刷		300千円		・パンフレット、ステッカー等増刷		300千円
	②	・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)		20千円		・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) ・地域イベントを活用した試食会等の開催 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜等の研修会開催		400千円		・地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等) ・地域イベントを活用した試食会等の開催 ・地元女性を講師に財田米に合う惣菜研修会開催と消費者へのメニュー配布		400千円
③					・都市部での認知度向上のためのPR活動		300千円		・都市部での認知度向上のための活動		300千円	
関係機関・団体		洞爺湖町役場		胆振農業改良普及センター			洞爺湖町教育委員会			洞爺湖町観光協会		
連携・協力機関・団体		とうや湖農業協同組合										

令和4年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【胆振総合振興局】

市町村名	洞爺湖町	活動地区名	財田地区	
活動団体名	財田米ブランド強化推進委員会			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	財田米PRに向けたHPの作成	12_委託料	300,000	HP新規製作委託費
①	財田米PRに向けたポスター、パンフレット、ステッカー等の作成	10_需用費	80,000	資材購入費
		12_委託料	300,000	デザイン委託費
		11_役務費	300,000	ポスター等印刷代
②	地元小学生や園児を対象とした食育活動(田植え、稲刈り体験等)	10_需用費	20,000	試食会経費
合計			1,000,000	
費目計		07_報償費	0	
		08_旅費	0	
		10_需用費	100,000	
		11_役務費	300,000	
		12_委託料	600,000	
		13_使用料及び貸借料	0	

令和2年
2020

農業・農村ふれあいフェスタ 赤れんが

『クイズで学ぼう！北海道農業』パネル展

農村は、お米や野菜などを作る場としてだけではなく、美しい景観や小動物の生息地、雨水をたくわえる防災の役割など、大切な働きがたくさんあります。また、全道各地域の「ふれあいファーム」では、農家民宿や農業体験などを通して、農業・農村の魅力伝える活動を展開しています。

会場は新型コロナウイルス感染防止対策の「新北海道スタイル」の徹底に努めています。

さあ！クイズにチャレンジして北海道農業等を楽しんでみよう。

日時 令和2年 10月3日(土) 10:00～15:00(雨天決行)

場所 北海道庁・赤れんが庁舎前
札幌市中央区北3条西6丁目

※会場には駐車場はありません。また、赤れんが庁舎改修のため、トイレ使用も不可です



Q&A 農業クイズ

各ブースに答えがあるよ！(ブース特別景品も当たる!?)

同時開催

おにぎりづくり教室	①10:00～ ②12:30～	参加者 公募
もち米教室	①11:00～ ②13:30～	
ヘルシー豆セミナー	14:20～	20名程度

●「北海道の木育」パネル展

●キッチンカー「カフェ」

●農家マルシェ -格安農産物販売-

・ゆでとうきび ・新鮮野菜 ・くだもの etc

豚肉試食
もあつよ。

新米食べ比べ
もあつよ。

※内容は変更になることがあります。

Q1	お米	「突るほど首を垂れる剛毅かな」 「ゆめ000」は人気の高い北海道米の品種です。	◎
Q2	豆	皆さん夏が旬のエダマメが大好きです。 エダマメが秋に完全に熟すると「O豆」になります。	◎
Q3	でんぷん	でんぷんには様々な加工品があります。 「水あめ」やお菓子を包む「000-0」も。	◎
Q4	小麦	家庭用「小麦粉」には「強力粉」、「中力粉」、「薄力粉」 があります。 ケーキ作りに最適なのはどれ。	◎
Q5	甜菜	「天才ピータケシ」とはうまい名前を付けたものです。 別名、「砂糖(さとう)0000」とも書きます。	◎
Q6	ジャガイモ	ジャガイモは馬鈴薯とも呼ばれ、とても身近な作物ですが、 では、ジャガイモの起源は何でしょう。	◎
Q7	豊かな農村	田んぼなどで遊ぶカエルの子供はオタマジャクシ。 ではトンボの子供は何。「00」。	◎
Q8	?	人と、木や森との関わりを主体的に考えられる 豊かな心を育む「O育」。Oの漢字は何。	◎
Q9	本部	北海道の農地面積は約14万4千haで、全国の1/4を 占めて日本一です。では、1haは0mですか。	◎

※Q1～Q9まで、クイズラリーを制覇した方には本部にて参加賞を差し上げます。

◎新型コロナウイルス感染防止対策「新北海道スタイル」を守ろう！

会場ではルールを守って行動して下さい。

お問い合わせ ふれあい農業・農村実行委員会事務局 ホームページ <https://nponoutopia.jimdo.com>
(株朝日アグリ内 011-221-1551)

主催：ふれあい農業・農村実行委員会 共催：NPO法人 農村と都市を結ぶ応援団(愛称～農・と・びあ)
協賛：ホクレン農業協同組合連合会、北海道澱粉工業協会、北海道養豚生産者協会、北海道土地改良事業団体連合会
菊地食品㈱、北海道日本型直接支払推進協議会、北海道産青果物拡販宣伝協議会
協力：北海道米販売拡大委員会、JA道央、公益社団法人 北海道森と緑の会、一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

